

現代日本における社会問題の分析

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 『講義概要』 記載情報 (一部)

- ◆ 到達目標: 社会問題を分析するための基本的なスキルを習得する。
- ◆ 目的・概要: 家族制度・人口変動・社会政策を中心として、近代以降の日本における社会問題の変遷を学ぶ。受講者各自の関心にしたがって文献調査を行い、途中経過の報告と討論を行いながら日本近代史に関するレポートを作成する。
- ◇ 参考書: 佐藤望ほか (2012) 『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』 (第2版) 慶應義塾大学出版会。
- ◇ 成績評価方法: 授業中の課題 (30%)、途中経過等報告と討論での発言 (30%)、期末レポート (40%)

2 この授業の目標

- 知的生産の技術
- 論文に書く内容を決めるまでのプロセス
- 意味のある問いと根拠のある答え
- メディア、他人、自分自身の利用方法
- 批判することの重要性

3 授業予定

- (1) イントロダクション [4/11]
- (2) 論文について各自発表 [4/18]
- (3) 第1講 課題設定のための討論 [4/25]
- (4) 第2講 文献検索とデータベース利用 [5/9]
- (5) 第3講 近代日本の統計システム [5/16]
- (6) 第4講 資料の評価と活用 [5/23]
- (7) 各自のテーマと先行研究について報告と討論 [5/30]
- (8) 第5講 専門用語と理論体系 [6/6]
- (9) 第6講 アイディアの創出 [6/13]
- (10) 第7講 アイディアの交換と建設的批判 [6/20]
- (11) 途中経過の報告と討論 [6/27]
- (12) 第8講 プロジェクトとしての近代史研究 [7/4]
- (13) 第9講 研究の倫理 [7/11]
- (14) 発表会 [7/18]
- (15) 講評とまとめ [7/25]
- (16) 期末レポート [8/14] →返却 [9/5以降]

※ 受講人数などの都合で授業計画を変更する可能性があります。授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります (その場合、受講者の都合にあわせて日時を設定)。

4 注意事項

- 授業中の課題遂行のため、情報機器の持ち込みを推奨
- 課題・宿題・レポートは、コメントをつけて返却します (内容によっては再提出を求めることもあります)
- 授業資料用の宿題については、早めに来て、研究室でコピーしてください
- 教員からの連絡は、授業中の指示、教務係前の掲示板、学務情報システムによります
- オフィス・アワーは定めていません。教員への相談は、適当な時間に予約をとってください

5 受講フォーム記入

- 自分の問題関心
- 日頃使っている知的生産やスケジュール管理の方法
- ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況
- 週間スケジュール

6 レポートのフォーマット

この授業では、長い文章を書くことは要求しない。期末レポートでは、つぎのような形式で、必要な情報を短くまとめること (通常、A4用紙2枚以内)

- 問い
 - その背後にある大きな問い
 - 問いの学問的背景
 - 問いの社会的意義
- 答え
 - 必要な予備知識と前提
 - 答えの根拠
 - ありうる批判とそれをクリアする方法
- 問いを発展させる可能性
- 文献

7 宿題

自分の興味に合った論文を一つ選ぶ。
その論文について、内容をまとめてくる

- 自分の関心について
- なぜその論文に興味をもったか
- 論文の「問い」はなにか、それにどのような「答え」を出しているか、その根拠は何か
- 疑問や批判など
- 内容を発展させる方向性

5分以内で内容を説明できるように。

論文を読むにあたっては、参考書 pp. 84-90 など参考。

年 月 日

現代日本学社会分析研究演習 I / 現代日本学演習 III

(田中重人) 受講登録フォーム

氏名 (よみがな) :

学年 :

学籍番号 :

所属 (現代日本学以外の場合) :

興味のあること (非学術的な話題も可) :

日頃使っている情報記録やスケジュール管理の方法 :

ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況 :